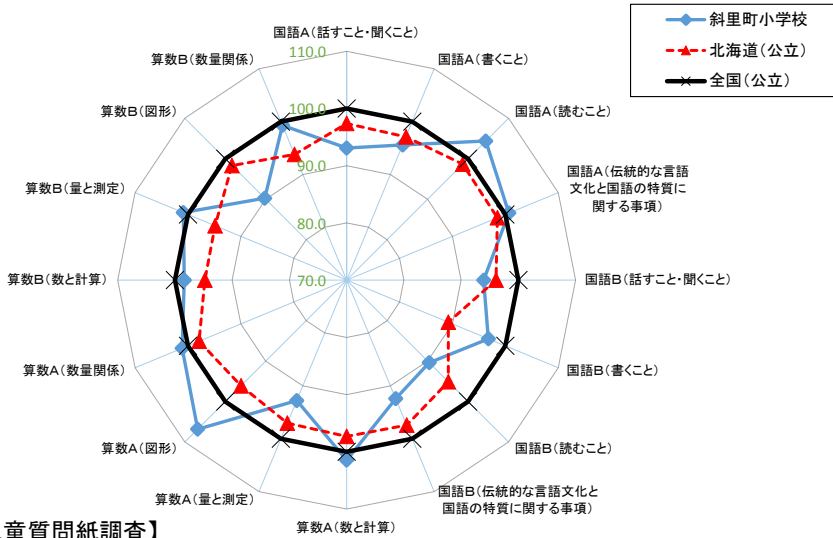


■ 斜里町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:6校、児童数:86名)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



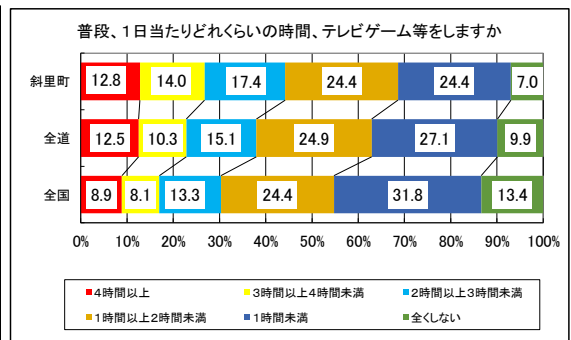
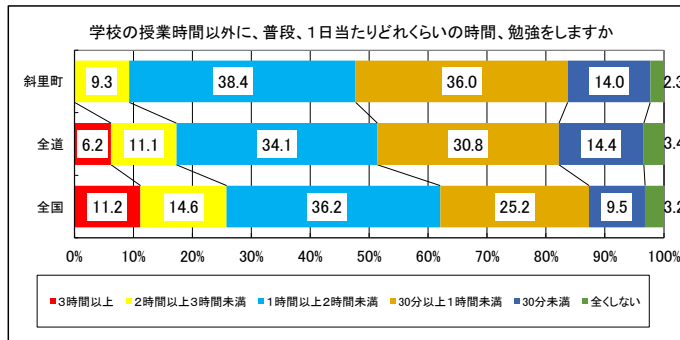
【斜里町の平均正答率】

	国語A	国語B	算数A	算数B
斜里町	73.4	50.7	78.6	56.9
全国との差	+0.5	-4.8	+0.5	-1.3
全道との差	+1.6	-2.2	+2.8	+1.7

【全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合】

	国語A	国語B	算数A	算数B
斜里町	27.9	29.1	23.3	30.3
全国との差	-0.3	+8.1	-2.3	+2.2

【児童質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aの「読むこと」の領域、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、全国・全道を上回っている。それ以外の領域では全国・全道を下回っている。 ○ 算数Aの「数と計算」、「図形」、「数量関係」、算数Bの「量と測定」領域において全国・全道を上回っている。それ以外の領域では全国・全道を下回っている。 ○ 平均正答率について、国語Aと算数Aでは全国・全道を上回り、算数Bでは全道を上回っている。国語Bでは全国・全道を下回っている。 ○ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合では、国語Aと算数Aで全国を下回り、国語Bと算数Bで全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前年度の厳しい結果を受けて、学力下位層の底上げを重点に学力向上に取り組んだことにより、すべての教科で前年度を大きく上回り、全国・全道との比較でも大きく改善されたと考える。しかし、国語Bが課題として残る。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の質問に、「1時間以上」と回答した児童の割合は、全国を大きく下回り、全道をやや下回っている。 ○ 「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム等をしますか」の質問に、「2時間以上」と回答した学校の割合は、全国・全道を大きく上回っているが、前年度からはやや改善されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習の手引や啓発チラシを全PTAに配布するなど、家庭と連携した取組を行ったことにより、家庭における勉強の時間やテレビゲーム等の時間がやや改善されたと考える。しかし、更なる改善が求められる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけをしましたか」の質問に「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」と回答した学校の割合が、全国・全道を上回っている。 	

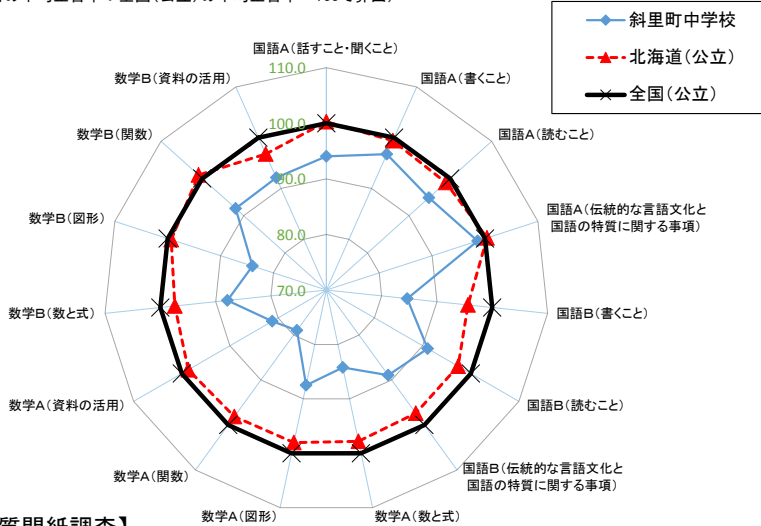
【斜里町の学力向上策】

- ◎ 斜里町学力向上推進計画(平成25年10月)に基づき学力向上推進委員会を設置(平成25年11月)し、学校間の情報交換や学習・生活習慣に関する保護者向けの啓発チラシの配布
- ◎ 町内の中心校2校に教育活動支援講師を各1名を配置し、きめ細やかで質の高い学習環境の整備
- ◎ 2年生以上の35人学級の実施
- ◎ 指導主事を活用し、学力目標を定め、学力向上に関する情報の提供、研修活動や公開研究会への支援

■ 斜里町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:2校、生徒数:100名)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



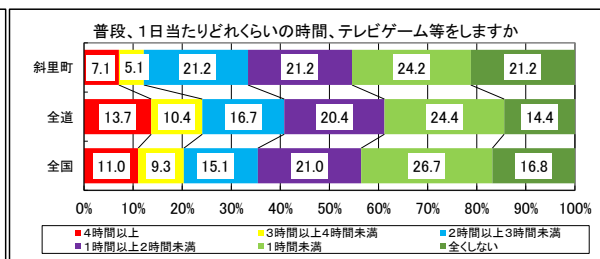
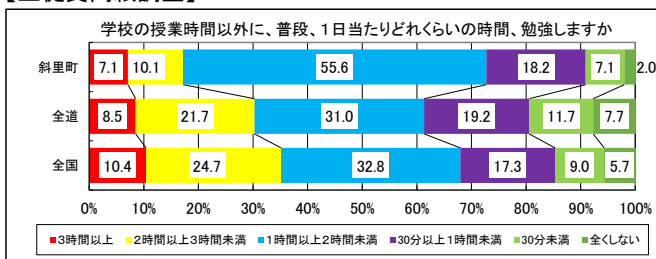
【斜里町の平均正答率】

	国語A	国語B	数学A	数学B
斜里町	77.1	46.8	56.6	53.0
全国との差	-2.3	-4.2	-10.8	-6.8
全道との差	-2.3	-3.1	-9.4	-6.4

【全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合】

	国語A	国語B	数学A	数学B
斜里町	25.0	28.3	42.0	38.0
全国との差	+1.1	+6.8	+17.8	+10.5

【生徒質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語A、国語Bともに、すべての領域で全国・全道をやや下回っている。 ○ 数学A、数学Bともに、すべての領域で全国・全道平均を大きく下回っている。 ○ 平均正答率について、国語A、国語Bともに全国・全道平均をやや下回り、数学A、数学Bともに全国・全道を大きく下回っている。 ○ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合では、国語A、国語Bともに全国をやや上回り、数学A、数学Bともに全国を大きく上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前年度の厳しい結果を受けて、学力下位層の底上げを重点に学力向上に取り組んだことにより、すべての教科で前年度を大きく上回り、全国・全道との比較でも大きく改善されたと考えられる。しかし、数学が大きな課題として残る。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の質問に、「1時間以上」と回答した生徒の割合は、全国をやや上回り、全道を大きく上回る。「全くしない」は全国・全道を大きく下回るなど、前年度からの改善がみられる。 ○ 「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム等をしますか」の質問に、「2時間以上」と回答した生徒の割合は、全国をやや下回り、全道を大きく下回る。前年度からはやや改善されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 規則正しい生活習慣の定着と家庭学習の習慣化を図るため、生活リズムチェックシート等の活用と家庭学習ノートの確実な提出などが、家庭における勉強時間の改善につながったと考える。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか」の質問に、「よく行った」と回答した学校が100%で、全国・全道を大きく上回っている。 	

【斜里町の学力向上策】

- ◎ 斜里町学力向上推進計画(平成25年10月)に基づき学力向上推進委員会を設置(平成25年11月)し、学校間の情報交換や学習・生活習慣に関する保護者向けの啓発チラシの配布
- ◎ 斜里中学校に教育活動支援講師を配置したきめ細やかで質の高い学習環境の整備
- ◎ 放課後や長期休業中の学び直し、家庭学習ノートを毎日提出させるなど、学校全体としての取組の充実
- ◎ 指導主事を活用し、学力目標を定め、学力向上に関する情報の提供、研修活動や公開研究会への支援